

せいざん



岐阜市立青山中学校
平成19年10月11日

心を磨く

10月1日付けで青山中学校に赴任させていただきました 栗田 京(くりた きょう)と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

私は、以前にもこの青山中学校に勤務させていただきました(昭和62年度～平成4年度)。そこで学んだことは「どういうことに人間としての値打ちを感じるか」ということです。

3年生になって、1日5～7時間の家庭学習を続ける子がいました。その子は、学校の授業でも、合唱でも、掃除でも手を抜くことはありませんでした。しかし、テストの成績は思うように伸びず、最初に考えていた進学先を変更しなくてはならなくなってしまいました。



苦しい状況の中で、今まで頑張っていた家庭学習も少なくなっていました。ところが、しばらくすると、以前にも増して、生き生きと頑張る姿を見せ始めたのです。何か吹っ切れたようなのです。私は、思わずその思いを聞いてみました。

「自分が夢見ていた高校への進学をあきらめなければならない時は、本当にショックでした。今まで頑張ってきたことは無駄だったのかと情けなくなりました。家に帰っても勉強する気にもなり

ませんでした。しかし、時間がたつと勉強しないことが、変に思えてきたし、頑張らないと自分ではないような感じがし始めた。」というような話をしてくれたのを覚えています。

私は、この話を聞く中で身震いするような感動を覚えました。人間、努力しても望むような結果を手にできないこともある。しかし、夢の実現に向けて、努力したという過程は偽りのない事実であり、そこに人間としてどう生きるかの値打ちがあるのではないかと考えるのです。そして、その子のように私自身が努力しているのだろうかと自分を見つめさせられたのです。

このような、すばらしい子に出会えた青山中学校で、再度、感動を得たいと思っておりますし、そのための努力もしていきたいと考えております。

保護者の方、地域の方の協力なくしてはなし得ないことですので、ご協力の程よろしくお願いいたします。